

平成 19 年度 教師海外研修(派遣国:マレーシア)実践報告書

1. タイトル 地球のどこかで起きている自分たちが知らない事実
2. 氏名 西岡 啓彦
 学校名 大阪狭山市立第三中学校 担当教科 数学
3. 実践教科 道徳(国際理解) 時間数 3時間
4. 対象生徒・学年 2 学年 5 クラス 対象人数 164人
5. 課外での取り組み
 マレーシア物産展とBCTへの募金活動 2学年有志 20名
6. カリキュラム案

(1)実践の目的

アブラヤシ・プランテーションで生産されるパーム油は、私たちの日常生活のさまざまな部分に入り込み、消費されている。

「見えない油」であるがゆえ、その存在やつながりにあまり気がつきにくい。しかし、パーム油をめぐる様々な課題は、私たちとは、決して無関係ではない。

この学習を通じて、パーム油に関わる様々な人々の立場や状況を理解し、パーム油を取り巻く課題について考え、その解決に向けて取り組む人々の活動に共感を持たせたい。そして自分なりにできることを考えさせたい。(道徳項目 3-2、4-10)

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時間目 テーマ:パーム油って? ねらい:パーム油について知る。 そして、どれほど自分たちの生活と密接した油であるかを理解する。	① 食用オイルの話 ② パーム油の説明 ③マレーシアってどんな所? ④ パーム油クイズ ⑤ 生産国で起きている現実を考える	① 『パーム油って?』 (パワーポイントで) ②現地で撮った写真 ③『パーム油クイズ』 (荒川氏より)

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
2時間目 テーマ:パーム油を取り巻く課題について考えよう。	① 洗剤CMから読み取れる象を考える。	印 ① ライオンの洗剤CM

<p>ねらい:パーム油に関わる様々な人々の立場や状況を理解し、パーム油を取り巻く課題について考える。</p>	<p>② 宇宙船地球号『子象の涙』をみる。(16分)</p> <p>③ パーム油に関わる人々の状況や思いについて班で考え、まとめ発表する。</p>	<p>② ビデオ(荒川氏より)</p> <p>③ ワークシート 登場人物カード</p>
<p>3時間目</p> <p>テーマ:パーム油と、どう向き合いますか?</p> <p>ねらい: パーム油の課題解決に携わる人々の活動に、共感を持たせるとともに自分として何ができるかを考えさせる。</p>	<p>① 解決方法を班で考え、まとめ発表する。</p> <p>② それぞれの立場で、パーム油の課題に取り組んでいる内容について紹介する。</p>	<p>① ダカット村の写真</p> <p>② BCTのパネル</p> <p>③ ワークシート 登場人物カード</p>

7. 授業実践の詳細

1限目:『パーム油って?』パワーポイントを使用

① 食用オイルの話

パーム油がいかに自分たちの生活の中に入り込んでいるかを理解させる。

② パーム油の説明

パーム油の製造過程を説明。

③ マレーシアってどんな所?

フォトランゲージを使い、マレーシアの国情の概要をつかませる。

④ パーム油クイズ(早くできた班が勝ち)

このクイズを通してパーム油を取り巻く課題に気づかせる。

⑤ 生産国で起きている現実を考える

パーム油の需要拡大が熱帯林破壊につながっていることをおさえる。

2限目:『パーム油を取り巻く課題について考えよう。』

① 洗剤のCMを見る。(1分30秒)

印象に残ったことを出し合う。

環境にやさしい・植物のカ・CO₂ の削減・手を振る子供たち・パームフルーツ
一面プランテーションの映像・芝生・白さがさわやかなど

② 宇宙船地球号のビデオをみる。(16分)

③ 登場人物を確認し、パーム油をめぐる関係を整理し、それぞれの立場や思いについてまとめてみる。

- A パートとウィリアム・・・NGO
- B サコンさん ……生産者
- C 更家さん ……企業

- D 田中さん … 消費者
- E ソウさん … 野生動物・森でくらす人々

3限目：『パーム油とどう向き合いますか？』

- ① 『どうすれば、みんながうまくいくのか』を考える。
 - * 班でA～Eを分担し、それぞれの立場になり、それぞれがうまくいくための方策を考え、発表する。
- ② 現在、取り組まれている具体的な方策を紹介する。

NGO…ボルネオ保全トラスト
 企業…売上げの1%をNGOに寄付
 森でくらす人々…エコツアーで自然の良さをアピール

課外での取り組み(校区内でおこなわれたサンネットフェスタに参加)

① マレーシア物産展

本校の保護者より紹介していただいたマレーシアの方のご協力で購入できたお菓子や文具そしてアクセサリーなどを販売。収益金は、BCTに寄付。

② BCTへの募金活動

授業でNGOの取り組みの1つとして紹介したBCTへの募金活動とそのプレゼン。
 (プレゼン用に、ZERI JAPAN よりパネル 5 枚とパンフ 300 枚を準備していただきました。)

8. 生徒の反応と所感

1 時間目は、パワーポイントを使用しての授業ということで生徒たちは何がはじまるのやら興味津々。この時間を通じて『パーム油』がいかに自分たちの生活と密接な関係にあるかを知り感心した様子。また、プランテーションのあまりの広さ(大阪狭山市の3倍)に驚いていました。さらに、最後のまとめとして見せたキナバタン川流域の熱帯林の減少を表したスライドには、唖然とした様子でした。

この時間は、フォトランゲージでは、写真を持ってあっちこっちに移動。パーム油クイズでは、班対抗で競争ということでどのクラスも楽しそうでした。

この時間のねらいである『ボルネオの熱帯林の減少に、自分たちの生活が深く関わっていること』は、十分おさえられたが、内容が盛りだくさんでマレーシアについての時間が不十分だったことが残念でした。

2, 3時間目は、宇宙船地球号のビデオを見て、ボルネオで起きている事実に触れ、熱帯林の減少が及ぼす課題について真剣に受け止めていたように感じました。やはり、中学生ということもあり、ゾウさんがかわいそうという感想が大半を占めていました。解決策として『ゾウを別の場所に移す』とか、『パーム油を使わない』などの意見が多かったのですが、話を続けるほど、『パーム油は悪くない』という結論に達し、じゃあ、どうすればいいんだろうと迷宮入りの話し合いになりました。そこで、BCTの取り組みや、サラヤさんの売上げの1%の寄付、先住民族の方のエコツアーなどを紹介すると、募金をしよう、消費者としてサラヤさんの商品を買おう、エコツアーに参加したいなどの活発な意見が出てきました。

最後に、課外で取り組んだマレーシア物産展とBCTへの募金活動においては、参加してくれた生徒の言葉『今、ボルネオでは、野生動物は、熱帯林の減少で大変なことになっています。ここでの収益金は、それを救うことに使います。ぜひ、買ってってください。』を思い出すと、確かに、種を蒔いたように感じました。

